

75ウルムチ虐殺事件の張本人

習近平

中国国家副主席

来日に際しての抗議デモ



日時： 12月12日(土)

会場： 常盤橋公園

13時半 集合、14時 デモ隊出発

主催団体： ウイグル問題を考える会

協賛団体： 日本ウイグル協会、台湾研究フォーラム、南モンゴル応援クリルタイ、チベット問題を考える会、モンゴル自由連盟党、チベット青年会議日本支援委員会、日本チベット友好協会、中国民主団結連盟

デモコース： 常盤橋公園→外堀通り→日航ホテル前右折→日比谷公園

※会場やデモコースは変更があるかもしれませんので、ご了承ください。

※過激な言動を慎み、マナー良く行いましょう。

2009年7月5日に首府ウルムチにてウイグル人による政府への改善要求のデモが行われました。これはそれに先立つ6月26日に起きた広東省の玩具工場でのウイグル人虐殺事件に対して、適切に処置するよう求める平和的なデモでした。

しかし現地政府はこの平和的なデモを武力によって鎮圧し、多数の犠牲者を出しました。

中国政府はこの「75ウルムチ事件」への対策チームを結成しましたが、その総責任者であったのが習近平です。

12月14日～17日に日本を訪れる予定の彼が、ウルムチ事件における虐殺を行った張本人であると言えるでしょう。

習近平を迎えるにあたり、ウルムチの虐殺を忘れないぞ！との強いメッセージを訴えたいと思います。ご参加・ご協力よろしくお願い致します。

会場地図



地下鉄半蔵門線三越前駅から徒歩2分、大手町駅から徒歩4分、
銀座線三越前駅から徒歩5分、JR東京駅から徒歩6分



ウイグルに自由を！

ئۇيغۇرلارغا ئەركىنلىك!

主催：ウイグル問題を考える会

ウェブサイト：<http://www20.atwiki.jp/uyghurissue/>

(右のQRコードで携帯からつなげます)

連絡先：uyghurissue@gmail.com



※私たちは世界ウイグル会議、日本ウイグル協会の活動を支援し、連帯していきます。

◆ウイグルについて◆

現在の新疆ウイグル自治区も含め、一般的に認識されているところの中央アジアは、「テュルク系の民族が住む土地」という意味の「トルキスタン」とも呼ばれる。日本人にはシルクロードの舞台として知られ、仏教東漸の舞台でもあり、多くの仏教遺跡が眠る。現在の住民の大多数はイスラム教を信仰している。トルキスタンはパミール高原によって東西に分けられている。西トルキスタンは90年代に独立したが、東トルキスタンは中国の圧政下に苦しんでいる。テュルク系民族は現在のモンゴル高原で生まれたが、その後東トルキスタンに移住、定住し、カラ・ハン朝とウイグル王国を作った。更に西へ進み、現在のトルコまでがテュルク系の人々が住む地となった。全世界のテュルク系民族の人口は1億3千万人といわれている。テュルク系の民族の中でウイグル人の人口は1千万とも2千万とも言われ、そのほとんどが東トルキスタンに住んでいる。もともとこの地域に住んでいる民族のうち、ウイグル人が8割ほどを占めていたが、中国の支配が始まってから大量の漢人の移住が行われ、現在では4割強を占める程度になっている。ウイグル語はアルタイ語に属し、文法的には日本語と近い。生活習慣にも似たところがある。

歴史上、東トルキスタンが本格的に中国の支配下に入ったのは清朝以降であり、それまではテュルク系、モンゴル系の王朝が続いた。清朝の時代であっても、各地域はウイグル人の宗教貴族や、土俗の有力者によって統治されていた。1933年と1944年は2度の東トルキスタン共和国が誕生したが短命に終わっている。面積は日本の5倍で、典型的な内陸性気候。タリム盆地の中央部にはタクラマカン砂漠があり、その周縁にオアシス都市が栄えた。

東トルキスタンは石油、石炭、天然ガスなどをはじめとした鉱物資源、農産物、畜産物に恵まれた土地である。東トルキスタンの石油、石炭、天然ガスの確認埋蔵量が、中国全土の確認埋蔵量に占める割合は、1/4、1/3、1/3にもなる。しかしこれらの資源はパイプラインによって中国沿岸部に運ばれ、地元の人々には還元されていない。

◆75ウルムチ事件について◆

今年7月5日に起きたウルムチでの事件は平和的なデモから始まった。

6月26日に広東省の玩具工場で起きたウイグル人襲撃事件の解決を願い、犯人を逮捕するよう要求するものであり、学生主体で行われた。中国国旗を掲げてデモをするなど、反政府的なものではなかった。デモ隊は次第に人を増やし、1万人の規模になったという。外部の勢力からの指示によって暴動が計画されたことと中国政府は喧伝するが、まったく根拠の無いでたらめである。

しかし現地の政府はこの平和的なデモ隊に対して、千人を超える武装警察を投入し、無差別な発砲により数百人を射殺し、さらに数人を装甲車でひき殺すなど、激しい弾圧を行った。事件の日以降、多くの逮捕者と行方不明者が出ており、監獄や刑務所に入れられている。

広東省の襲撃事件で殺された広東省在住のウイグル人達は、経済的な理由による出稼ぎ労働者などではない。2003年より中国政府は、ウイグル人の若者数十万人を、中国の沿岸部の工場などへ強制的に連行しているのである。各地域で「出稼ぎ」に出るよう若者の数がノルマとして割り振られており、また貧しい農村部の若者に仕事を斡旋すると名目ではあるものの、実態は安価な労働力として奴隷のように酷使されている。さらに女性であれば売春を強要されることもある。

6月26日の広東省で起きた事件は、解雇された漢人が嘘の情報を流し、扇動された漢人がウイグル人を襲ったということである。多数のウイグル人が犠牲になった。

民族同化政策

そもそもウイグル人の貧困を、地元での雇用によらずに、沿岸地域に移送させることによって解消しようとするのは何故なのだろうか。中国の支配下に入ってから、東トルキスタンには大量の漢人が入ってきている。60年前の総人口に占める漢人の割合は6%に過ぎなかったのが、現在ではほぼ半数を占めるまでに至っている。地元の要職は漢人によって占められ、ウイグル人は大学を卒業しても地元では仕事が出来ないのが現状である。漢人の大量移住とウイグル人の若者の大量移住は、東トルキスタンの同化を目的として行われているとしか考えられない。東トルキスタンの中ですら、文字通りの少数民族になろうとしている。

また民族の根幹を成す言語や文化、信仰などへの制限も益々強化されている。公教育からのウイグル語の追放は大学から始まり現在では幼稚園から中国語教育が行われている。児童や学生は宗教活動への参加を禁止され、大学の寮などでは日々の祈りを行っていないかを教師が見回っている。

カシュガル旧市街の町並みなど、民族の歴史的な文化も破壊されている。民族の歴史や文化に関する出版活動も中国政府の意に沿うように制限されている。地域住民の集まりなども政府の管理下に置かれている。宗教的・地域的つながりを失った若者たちはモラルを失い、さらにさまざまな抑圧や経済的な差別により、ドラッグに溺れてエイズに罹るなど深刻な社会問題を生んでいる。

また、さまよえる湖として有名なロプノールでは、住民が住んでいるすぐそばで核実験が何度も行われており、数十万人規模の放射能による犠牲者を出している。

このような政府の残酷な政策に異議を唱える者は、「分離主義者」、「テロリスト」とレッテルを貼られ、まともな手続きも経ずに監獄や強制労働所に送られている。

事件以後のウイグルは

デモが鎮圧された後、中国政府はウイグル人の暴動によって漢人が多数被害にあったことさらに強調し、民族対立を煽った。その結果7月7日には漢人による報復行動が起こった。報道された写真に写る漢人らは鉄パイプや手斧を持っているが、彼らは「デモ参加者」とであるとされている。これら漢人の暴徒は道を歩くウイグル人を襲い、ウイグル人の商店を襲撃し、モスクに放火した。しかし、当局はウイグル人に対してしたような激しい鎮圧は行っておらず、「民族」毎に違った対応をしている。

中国政府の公式発表では192人の死者となっているが、実際には武装警察や漢人の報復行為によって数千人のウイグル人犠牲者が出ているとみられている。また、今でも多くのウイグル人が逮捕され、監獄に閉じ込められ、拷問を受け、死に至っている。

昨年チベットの事件とは違い、中国政府は情報を公開する方針に変えたというが、それは中国政府の公式の情報を発信するということであり、現地に入った外国のメディアは移動の制限を受けていた。つい最近まで外からは電話をかけることも出来ず、現在でもネットはつながらない状態である。